



# 九条の樹

86号  
2020年10月発行



発行：東久留米「九条の会」 連絡先：Tel 042-473-9489 (鈴木)

http://higashikurume-9.net/ メール：higashikurume9j@gmail.com

## 「敵基地攻撃能力」は

## 九条・平和主義を壊す

東久留米「九条の会」事務局

集团的自衛権行使容認が内閣で閣議決定され、安保法制が強行採決されてから5年たちます。

安倍首相は任期途中で辞任し、陰の立役者であった菅義偉氏が、首相に就任しました。前政権の継承を全面に押し出し、政策のキーワードは「自助、共助、公助」、まず自分のことは自分で、自分がだめなのは自分が悪いからという「自己責任論」政権です。

安倍首相が置き土産として発表した談話では、「イーシス・アシリア」の配備停止を踏まえて、それに代わるミサイル阻止に関する安全保障政策の新たな方針について「今年末までにあるべき方策を示し、我が国を取り巻く厳しい安全

保障環境に対応していく」と、「敵基地攻撃能力」の保有検討を新政権に促しました。

「敵基地攻撃」とは、「相手国の領域で、まず防空レーダーなどを攻撃、無力化して相手国の制空権を確保し、たうえでさらなる攻撃を行う、一連のオペレーション(作戦)だ」と当時の河野防衛大臣の言葉。つまり、相手国の領域まで乗り込んでいく、ミサイル基地をしらみつぶしに攻撃することです。

政府は安保法制による集团的自衛権の発動として、「敵基地攻撃」を行うことを否定していませんし、第三国に先制攻撃することを前提にしています。日本に対する攻撃は無いのに、米軍と自衛隊が、相手国の領

域まで乗り込んでいって、一緒になつて攻撃し、相手国を焼け野原にする。これができるようになるということなんです。「日本を守る」どころか反撃を呼び起こし、日本に戦火を呼び込むことになりま。また、こうした能力を持つことと自体が、この地域の軍拡競争に拍車をかけ、情勢を危険なものにしていきます。

憲法解釈を変えて集团的自衛権を認め、安保法制を成立させ、さらに敵基地攻撃能力の保有に転じれば、戦後日本が貫いてきた憲法9条を基にした平和主義から大きく逸脱します。憲法解釈を政府が自在に変えて、自衛隊の活動範囲を広げることなど許されません。

敵基地攻撃は先制攻撃であり、日本国憲法でも、国連憲章でも違法であり認められません。日本が攻撃されないようにするには、ミサイル能力を持つのではなく、憲法9条の平和主義に基づく外交をきちんとして進めることが重要です。

# コロナ禍と人権

## 宇都宮健児さん講演

九月十九日に開かれた東久留米九条の会主催講演会の要旨です。

(文責編集部)



都知事選の中で考えた  
り、コロナ禍の中で考えた  
りしたことをお話ししたい  
と思います。

### 派遣村のことなど

私は弁護士になって30年以上

にわたってサラ金などの多重債務者救済をやってきましたが、個別の救済には限界があると思いました。弁護士会に次々と相談が来る。来られない人の中に自殺や夜逃げが起きています。こういう人の救済のためには法律を変える必要がある。サラ金の高金利や暴力的な取り立てや支払い能力を超えた貸付を規制する立法運動に取り組みました。

30年以上かかって2006年にグレーゾーン金利を撤廃する法律を制定させることができたのですが、この運動の中でなぜ高金利や、暴力的な取り立てがあることが分かりながらサラ金を利用する人が多いのかという点、収入が減ったとか、失業した、病気になったとか。生活が

苦しいという貧困の問題が背後にあることが分かってきました。いくら業者を規制しても貧困の問題は解決できない。

反貧困の運動が必要だと考えて、2007年の10月に反貧困ネットワークという団体を立ち上げました。その活動の中で翌年リーマンショックが発生して経済不況が広がり、多くの派遣労働者が解雇されました。派遣切りです。路上生活を余儀なくされている人が多く出ました。2008年の暮れに労働組合、市民団体の皆さんと一緒に日比谷公園で年越し派遣村を設置して救済活動をやりました。

### コロナと貧困

新型コロナウイルス感染拡大の中で、また多くの派遣労働者が職を失っています。収入が減ってアパートやマンションの家賃が払えず路上に出ざるを得ない人がたくさん出てきています。ネットカフェで寝泊まりしながら生活していた人がネットカフェが休業要請の対象になり、

そこから出されてしまいました。一部は東京都がビジネスホテルを用意したのですが、受け入れられない人もありました。

中小業者や、商店、ライブハウス関係の人などが、営業が続けられなくなるということが起っています。練馬区でどんかつ屋さんの54歳の店主が油を頭からかぶり焼身自殺をする事件も起こっています。

反貧困ネットワークでは派遣村の時にように一堂に人を集めるような活動は、感染予防の点でできないということで、他団体の方と3月に新型コロナ緊急アクションを呼びかけて、現在35団体が集まって、生活困窮者の救済活動が続けています。国会の院内集会もやりました。緊急支えあい募金を募りましたが9千万円を超える寄付が集まりました。一人で一千万円寄付した方もありました。世の中捨てたもんじゃないと思います。寄付金は路上生活者などの生活保護が支給されるまでの間の宿泊費や生活費などに使われ

ています。最近、非正規労働者で外国籍の人が増えています。ベトナム人の技能実習生やクルド人。また難民申請をしている人などが支援要請してきています。

政府の対応で問題点が見えてきます。一律10万給付は住所がないとだめで、路上生活者や、外国人で入管から放免された人などはもらえていません。一番生活に困窮する人に届けられないのが問題です。

## 医療など大事なこと

医療体制の充実、休業補償が大事だと思います。PCR検査を充実し感染者を隔離しないと安全な暮らしができません。これが出ていません。都もだめですね。世田谷では誰でも何度でもと検査を実施しています。

医療従事者、配達、清掃労働者に対する財政支援が必要です。医療従事者のボーナスカットなども起こっていますね。

保健所は深刻で東京はかつて71ヶ所あったんですが、今は31

ヶ所で半分以上減らされてます。全国でも92年に852ヶ所が現在469で半減です。発熱した人の電話が殺到するので保健所がパニック状態になっています。このことは日本政府が感染症対策の手抜きをしてきたことを表していると思います。感染症は頻繁には起らないけれど歴史を見れば何度も起こっている。万一に備えて保健所の体制強化は必要だと思います。

東京都として問題なのは都立病院、公社病院を独立行政法人化させようとしています。残念ながら落選しましたが、私が都知事選の中で緊急課題として訴えたのは、コロナ対策で医療体制の充実と徹底した休業補償。都立病院公社病院の法人化に反対する。そしてカジノ誘致中止でした。候補者は公約を出しますが、落選はしても掲げた公約を実現する責任があると思います。そのために市民運動に参加しなければいけないと考えています。

今、都立病院が8つ、公社病

院は6つありますがコロナ患者を一番受け入れているのは都立と公社の病院です。民間病院はあまり受け入れると赤字経営になってしまいます。

小池知事が都立病院、公社病院の独立行政法人化を初めて言い出したのは昨年の12月都議会でした。ところが今年コロナ感染が拡大していく中で、中心になって患者を受け入れたのが都立病院でした。状況が変化しているので小池知事は、方針を撤回するだろうと思っていたのですが撤回しない、進めようとしているのです。

独立行政法人化というのは独立採算制でやれということ、実質的な民営化につながるものです。これまで独立行政法人化されたところを見ると必ず患者負担が増えています。東京の板橋の健康長寿医療センターが独立行政法人化の第一号になっているのですが病床が160ぐらい減らされ、差額ベッド代を請求され、入るときに保証金10万円要求されている。看護師さん

の給料も都立に比べ下がっています。

コロナは終息していませんので医療体制の充実や、お店や事業者、労働者の休業補償などしっかりと求めていく必要があります。(つづく)

### ◆アンケートから(抜粋)

・半貧困ネットワークの活動で、役所で待っているのではなく街に向いて困っている人を捜して支援につなげるシステムはとていいと思います。

・ピーター・ノーマン選手の話もよかった。国連の人権条約が日本ではあまり広まっていないとこのことが残念だと思いました。

・韓国と日本の弁護士団が個人の人権を守ることを合意しているのが、日本ではあまり取り上げない、ということも残念。

・デンマーク、スウェーデンの子供の幸福度が高いこと、一つひとつがとても良いお話でした。

・あらためて日本国憲法は人権をつらぬいて作られていると認識。韓国の見方が少し変わりました。

# 「チブスのメアリー」によせて

出崎 哲

「チブスのメアリー」についての本がよく読まれていると聞いて、自分も10年くらい前に読んだのを思い出しました。

彼女は1907年に拘束される。彼女は無症候性キャリア（腸チブス菌の）だったため料理を通じた殺人の嫌疑があった為でした。昨今のコロナ禍のなかで彼女と同じ立場になる可能性が大きい私たちとしては、「チブスのメアリー」の顛末を知っておくことが大切だと思いました。

メアリーは3年間拘束後、釈放されます。しかし5年後に再拘束されます。二度目の逮捕は料理をしないという誓約書に違反したためです。こ

の時にマスコミの報道は厳しいものでした。「毒婦」「無垢の殺人者」「歩く腸チブス工場」等。そして再び釈放される事なく彼女の人生は終わった。健康保菌者は他にも沢山いた中で、メアリーへの処遇がやりすぎだったことも今では明らかになったらしいけど、隔離が正当化されてきたのは、恐怖や差別が背景にあったからだろうと本の中で言っています。メアリーがアイルランド系移民で貧しい賄い婦で女性で独身という社会的条件も不利に働いたと言っている。

新型コロナウイルスも、社会的弱者ほどリスクが高いという共通点が不気味です。

私は今年80才になりました。紛れもない老人です。もし例の病に感染等したら保菌者どころかすぐにナという字もいれなくなりそうです。つまらないシヤレで御別れです。

皆様もコロナには気を付けて生きましよう！

（1900年代初頭のアメリカニューヨークで腸チブスの感染が広がり、アイルランド人の料理人メアリーが無症状感染源だと特定された。メアリーに関する本が出ています）



《平和を考える本》

『パンとバラ』

——ローザとジェイクの物語

（キヤサリン・パターソン／作 檜成社）



20世紀初頭、アメリカ・ロレンスでイタリヤ移民労働者による大規模なストライキが起こった。家族ぐるみで働いても生活は苦しいのに、この上賃金カットを目論む雇い主に対して、「パンがほしい、そしてバラも」のスローガンの下に立ち上がった。

ストライキ委員会を結成、近隣の労働者との連携・団結も進み、2か月後には労働条件の改善を約束させて勝利を収めた。

この間、驚くほどの働きと粘りを見せたのは女性たちで、後に続く子どもたちの世代にも大いに影響を与えた。

（高田桂子）